

授業紹介、先生紹介

現代社会の授業 担当:永井 幸大 先生

11月25日(火)、若手教員の研究授業を実施しました。

対象の授業は、1年次の「現代社会」、担当は永井幸大先生、入都して3年目です。指導担当の先生をはじめ、多くの先生方が見学しました。

今回の授業は「人間の生死と生命科学」という4時間の単元の1時間目で、「医療技術の発達に伴い発生する生命をめぐる倫理的判断について考える」ことを目標に実施されました。

導入として、昨年起きた医師による囑託殺人事件のニュースを紹介し、日本人の平均寿命や、死因、死を迎える場所などのデータを提示しながら、「どのような状態になったら死とされるのか?」「なぜ脳死を死とするのか?」「もし自分が臓器提供の判断をしたら?」など、多くの発問を投げかけ、生徒に深く考えさせようとして取り組んでいました。グループでの話し合いや発表を取り入れたり、臓器移植法改正と大学入試問題に関する話題を提供したりして、生徒を引き付ける様々な工夫もありました。

スライドを使って今日のテーマを説明する永井先生



<永井先生にインタビュー>

Q 今回の授業で生徒たちに理解してほしいことは何ですか？

現代の社会は科学技術の発達が進み、少し前までは考えられなかったことが普通にできるようになっています。その中で、もしかしたら何かを技術的にできるようにすることにばかり目が向いてしまっているように感じることもあります。技術の発展に力を注ぐことも大切なのですが、色々なことが可能になった社会の中で、何はしてよくて、何はできてもしてはいけないかを倫理的に考えていく必要性が出てきていると思っています。

今回の授業では、「神の領域」と呼ばれるほどに進歩した現代医療技術を題材に、少し重いかもしれませんが、生と死に関わる倫理的判断を考え、生命の価値について理解することを目標としました。そして、臓器移植について、また、次回の内容ですが尊厳死について「自分が自分の生命に対して下す判断と、自分が自分の大切な人に対して下す判断にずれが生じるかもしれない」ことから、事前の対話が必要であることを考えてほしいと思いました。

Q 日頃の授業で大切にしていることは何ですか？

できていないこともあるのですが、なるべく様々な意味で意外性のある（予想外のことがある）授業をつくっていきたいと思っています。また、生徒に質問を投げかけて、返ってきた答えにはなるべく追加質問をしようと思っています。問いと答えの連続で、内容が深まると考えているからです。

Q 葛総生に一言お願いします

友達と遊んだり、ゲームやスポーツをしたり、絵を描いたり、音楽を聴いたり…それぞれにそれぞれの持つ特有の面白さがあるように、学ぶことにも学ぶことにしかない面白さがあると思っています。それをぜひ高校生活の中で見つけてほしいと思っています。

グループワークの様子

